

11. 当院における避妊と中絶の実態

はまだ産婦人科

○濱田寛子

諸言

望まない妊娠を避けるための避妊法は2011年United Nationsによると日本では、ピル1.0%、コンドーム40.7%と先進諸国に比べてコンドーム使用に偏っている。日本の避妊実行率は世界の平均値62.7%に比べても54.3%と低い。わが国でも2011年より、緊急避妊ピルが導入され、当院でも処方を開始した。

緊急避妊ピル導入以来5年を経過したので、当院での処方件数、中絶件数の年間推移を検討した。同時期の低用量ピルの年代別処方数の推移と比較した。

対象と方法

平成23年度から平成28年3月31日まで年度毎の人工妊娠中絶件数、緊急避妊ピル処方数、低用量ピル処方数、外来総件数を調査した。緊急避妊ピルの処方は、平成23年5月26日のノルレボ®発売まではプラノバル®2錠2回処方のヤッペ法、発売後はノルレボ®1.5mg処方で行った。さらに、平成23年度からの緊急避妊ピルの処方数、中絶数、低用量ピルの処方数を年代別に調査した。

結果

緊急避妊ピルの処方数は平成23年度から年々増加してきている。一方、中絶件数/外来総数(%)は減少が認められる。(図1)。

これを10歳代から40歳代の年代別に中絶数と緊急避妊ピル処方数の推移を示す(図2, 3)。中絶数では、20歳代以上は漸減傾向が認められるが、10歳代ではいまだに漸増して来ている。緊急避妊ピルの処方数は20歳代以上では増加が認められるが10歳代の処方は平成23年度から増加は認めない。

低用量ピルの処方総数と年代別処方を図4に示す。平成23年度から変化はほとんどなかった。

考察

緊急避妊ピルの処方と共に中絶数/外来総数(%)が減少したとが推察される。

しかし、10歳代では緊急避妊ピルの処方が少なく、周知されていない事が推察される。10歳代では反対に中絶件数が増加傾向にあることが憂慮される。

望まない妊娠や性感染症を防ぐために、10歳代の男女両方に緊急避妊ピルの周知も含めて、適切な性教育をしていく必要がある。

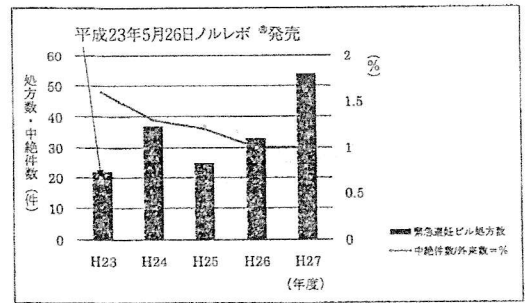


図1 当院における緊急避妊ピル処方数と中絶数

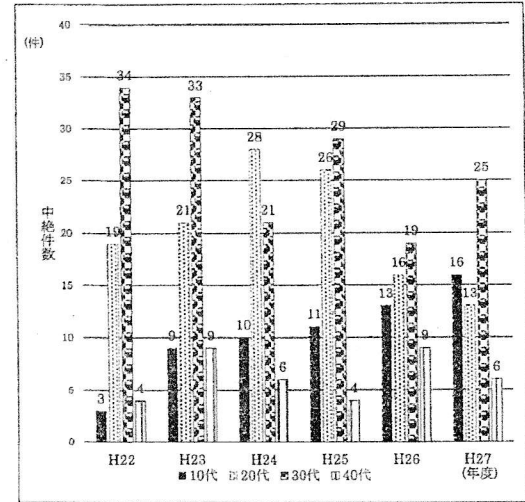


図2 当院における年代別中絶件数

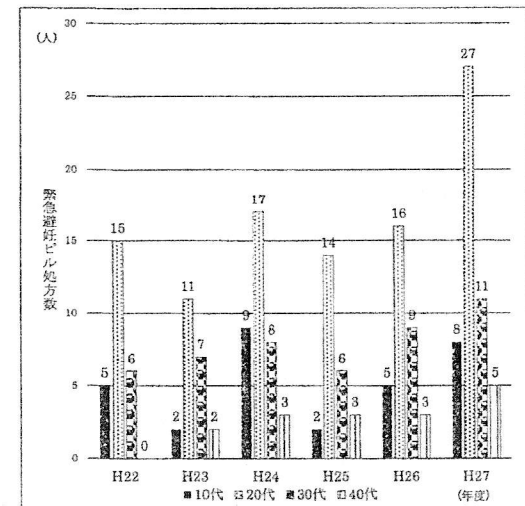


図3 当院における年代別緊急避妊ピル処方数

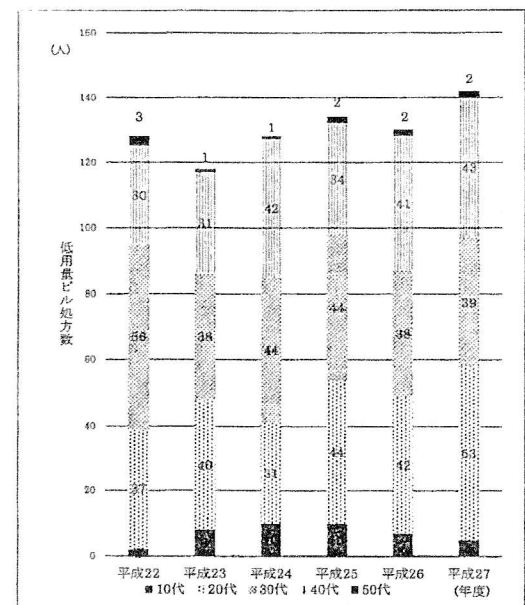


図4 当院における年代別低用量ピル処方数